

(様式1)

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立四谷第六小学校

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	・学力を定着させるために、繰り返し学習や振り返り学習等を取り入れた授業づくりを行う。	中 間 評 価	・小テストやモジュールタイムを活用して繰り返しや振り返りができた。	最 終 評 価	
環境づくり		・ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくりを行う。		・板書やカードなど視覚的な提示を意識してきた。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課 題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	学3割の児童が、カタカナや漢字を見本なしに書くことができない。 学4割の児童が、「～は、～へ、～を」を用いて正しく文を書くことができない。	・既習したカタカナ・漢字を習熟させるために、反復して学習する必要がある。 ・「～は、～へ、～を」を意識させながら文を書くことが課題である。	・カタカナ・漢字等において、定期的に、既習したカタカナ・漢字の確認テストを実施して間違えた文字を復習させたり、宿題等の家庭学習を出して家庭との連携を図ったりすることで習熟を図る。 ・手紙や感想文など、文を書く機会を増やし、その都度、「～は、～へ、～を」を用いて正しく文を書くことができるようにする。		
	算数	学速く正確に計算できるようになってきたが、繰り上がり・繰り下がりの計算では時間がかかり誤答になる児童がいる。 学文章題を見落として、たし算・ひき算を間違えて立式する児童がいる。答え方も単位を書かない児童も多い。	・繰り上がり・繰り下がりの計算を習熟させるために、反復して学習する必要がある。 ・文章題をよく読んで立式し、答え方を確認して答えるようにすることが課題である。	・計算において、定期的に、既習した計算確認テストを実施したり、宿題等の家庭学習を出して家庭との連携を図ったりすることで速く正確に解答できるようにする。 ・ICTを活用して、文章題の内容理解を深め、立式できるようにする。単位を付けて答えるように指導していく。		
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学カタカナをすぐに書けない児童がいる。 学気持ちや意見を話して伝えることはできるが、文章化して伝えることが難しい児童が多い。 学心情の読み取りが苦手な児童が多い。	・話すことで思いを伝えることができるが、書いて思いを伝えることが課題である。 ・登場人物の立場になって物事を考えることが苦手である。 ・日記等で正しくカタカナを表記できていないことが多い。	・作文や日記などで書くことに対する抵抗をなくしていく必要がある。その際、習った漢字を使用するように声掛けをしていく。 ・物語の登場人物の立場になって考えるという視点で授業を展開し、人物の性格などを考えて気持ちまで考えられるようにしていく。	・行事の振り返りや日記に多く取り組ませることで、書くことに意欲的な児童が増えてきた。カタカナを使う場合、間違いがある児童がいるため、その都度読み上げ、書き直させる。 ・物語の登場人物の立場になって考えることに苦手意識をもつ児童が多い。読書を通して、物語に多く触れさせるとともに、登場人物と自分を重ねさせて考えさせる。それを通して授業の中で人物の性格・気持ち等を考えさせていく。	
	算数	学加法・減法の計算は理解しているが、繰り上がりや繰り下がりをおぼれてしまう児童がいる。 学文章題の問いを読み取るのが苦手な児童がいる。 学問題（式）を図で表現できるようになってきている。	・文章問題が解けない場合があり、何を問われているかを把握する練習が必要である。 ・加法・減法の計算において、繰り上がりや繰り下がりをおぼれてしまう。	・文章から何算の問題になるのかを確認しながら取り組んだり、問われていることを確認したりしながら授業を展開していく。 ・スピードより正確な計算が大切なことを伝えていき、ミスの原因を各々考えさせたりしていく。	・文章問題の中で分かっていること、問われていることに線を引き、整理しながら問題を解かせることで、少しずつ間違いが減ってきた。 ・復習プリントに繰り返し取り組ませている。間違いがあれば、その場ですぐに間違いを訂正するよう指導していく。	
3	国語	調各領域とも、全国平均を大きく上回っている。特に「物語の場面の様子を読み取る」「説明を理解して適切なやり取りをする」は正答率が高い。 調「話題に沿った質問をする」「漢字を読む」「登場人物の気持ちを読み取ること」が他の領域と比較すると標準スコアに近い。 学情景や心情を捉えて音読することに、意欲的である。漢字を丁寧に書く児童が多く、正しく字形を整えて書ける児童が多い。しかし、極端に字形が整えられない児童もいる。 学作文に自分の思いや様子を具体的に書くことができる。	・作文に自分の思いや様子を具体的に書くことができる反面、自分の思いを話す場面になると表現が乏しくなる児童が多い。 ・読書が好きな児童が多いが、自分の好きな本を読むことも多く、広く本に親しんでいるという児童は少ない。しかし、おすすめの本などを読もうと声をかけると素直に読もうとする姿勢があり、様々な本の紹介が必要である。	・ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、自分の思いを言葉に表現する機会を増やし、書く力を話す力につなげていく。また、ペア学習やグループ学習の中で相手が何を伝えようとしているか、相手意識をもって聞く姿勢を付けていく。 ・新出漢字の学習の中で「漢字を読む」力を付けるため、フラッシュカードを定期的に取り入れ、いつでも復習する機会を設け、学力の定着を図る。 ・「登場人物の気持ちを読み取る」力を付けるため、登場人物に寄り添った読みができるよう、言葉に着目した授業展開を行い、音読に意欲的な姿勢を生かし、音読活動を多く取り入れていく。	・ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、自分の思いを言葉で表現する機会を増やしているため、友達の発表を意欲的に聞く姿勢も増えてきた。 ・フラッシュカードを定期的に取り入れたり、漢字の再テストを繰り返し行ったりすることで基本の定着が図られつつある。 ・「登場人物の気持ちを読み取る」力を付けるため、言葉に着目して登場人物に寄り添った読みができるようになってきた。	

		調「１０００までの数」「長さ・かさ」は他の領域と比較すると標準スコアに近い。「かさの単位を理解し、大小を判断する」力は標準スコアから大きく下回っている。 学算数が好きという児童が多く、繰り返し学習をしてきた計算問題や九九に関しては自信をもって学習に取り組んでいる。しかし、自分の考えを数直線で表したり、式で表したりすること、またそれを自分の言葉で説明することに自信のある児童は少ない。	・数の相対的な大きさの理解や数直線の読み取りや表す力に課題がある。 ・自分の考えを式や数直線、短い言葉で表現することになれていないため、解き方を文章で長々と書いてしまう児童も多い。また、ノートに書けていても発表につなげられない児童も多い。	・デジタル教科書を活用することで、数直線で表すよさや数の相対的な大きさを感覚的にとらえられるように場面設定をしていく。 ・「長さ・かさ」の学習の定着のために、実際に測っていくことでその感覚を身に付けさせていく。 ・自分の考えを分かりやすくノートで表現した児童のノートを授業に活用していき、式や数直線で表すよさに気付かせていく。また、ペア学習を取り入れ、自分の考えの根拠を言葉で表現する機会を設け、自分の考えを明確化していき、自信を付けさせていく。	・具体物を活用しつつ、デジタル教科書を活用し、感覚的に捉えられるように場面設定を多くしている。 ・自分の考えを図や式で表現する仕方を單元ごとに示しながら自分の考えの表し方を捉えられるようになってきた。発表までつなげられることができる児童は少ない。机間指導で認め、自信を付けさせていく。	
4	国語	調領域「「読むこと」の正答率は、全国平均を上回っている。特に「物語の内容を読み取る」や「説明文の内容を読み取る」は正答率が高い。 調「漢字を読む」「漢字を書く」「作文」が他の領域と比較すると標準スコアに近い。 学様子や心情を捉え、音読したり、説明文の内容を的確に読み取ったりすることに対し、意欲的である。 学作文に自信がもてず、書き出しから迷っている状況が見られる。また、様子や心情を表すための語彙が少なく、文章が単調になりがちである。	・語彙を増やし、豊かな表現ができるようにする。 ・「漢字を読む」「漢字を書く」習慣を付け、習得を確実にする。 ・「書くこと」に関しては、自分の考えをもち、感じたことなどを文章にする方法を身に付けて、自信をもって作文できるようにする。	・読書をする習慣を身に付けさせるとともに、ブックトークなどを通して、読書の分野を広げられるようにする。 ・辞典や図鑑などを手にとれる場所に常備し、すぐに調べられる環境づくりをし、知識や語彙を増やせるようにする。 ・漢字のミニテストを繰り返し行ったり、音読の家庭学習に取り組ませたりする習慣付け、力を付けられるようにする。 ・毎週日記を書くことを習慣付け、自由な題材で書いたり、テーマに沿った内容で書いたりする機会を設定し、文章を書くことに慣れさせていく。	・読書月間で毎日読書をする習慣が付けられてきた。国語の学習での並行読書や団体貸出を活用してのテーマ読書などを設定することにより、読書の幅が広がってきている。 ・漢字の習得は、ミニテストの反復やペーシックタイムでの取組を通し、確実にようになってきた。 ・文章を書くことに抵抗がなくなってきたが、様子や気持ちを表現するための語彙を豊かにする必要がある。児童のよい表現を紹介し、短作文の指導を続けて行っていく。	
	算数	調各領域とも全国平均とほぼ同程度である。 調「量と測定」「図形」「が全国平均に近い。特に「長さ」「時刻と時間」文章題の立式について理解を深める必要がある。 学定規やコンパスなどの用具を用いて、作図、計測を正確に行ったり、文章題の意味を読み取り、立式が正確にできなかったりする状況が見られる。	・「図形」の領域において、道具（定規、分度器・コンパス等）を巧みに使い、正確に作図することが課題である。 ・「量と測定」の領域で、感覚的にとらえることが難しい。 ・文章題を読み取り、立式することに苦手意識をもっている児童がおり、また、問題は解くことができて、友達にわかりやすく説明することにすすんで取り組める児童に限られている。	・基本的な道具な扱いを理解し、扱いに慣れることができるように、用具を用いて模様を描く課題に取り組ませるなど、経験を積ませる。 ・実際に量を測定する・ペア学習やグループ学習を活用して、互いの考えを交換することのできる場を設定し、自分の考えをもち、自信をもって問題を解決できるようにしていく。	・「図形」領域で作図の指導を行っているが、正確に行えていとは言えない。特に、コンパス、分度器を使用する作図や三角定規を使用しての垂直、平行の作図については、慣れるまで繰り返し反復練習が必要である。 ・文章題の立式については、四則計算の意味について前学年までの復習をすることで少しずつできるようになってきている。理解を深めるために文章題をただ解くだけでなく、言葉で表現することを繰り返し指導していく。	
5	国語	調領域「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の正答率は、全国平均を大きく上回った。特に「漢字を読む」「物語の内容を読み取る」や「説明文の内容を読み取る」は正答率が高い。 調「書くこと」の「漢字を書く」「作文」が他の領域と比較すると標準スコアに近い。 学文章を書くのに時間がかかり、正しく丁寧に漢字を書くことに課題のある児童が多い。漢字の読み書きや慣用句、熟語の意味などが十分に定着していない状況が見られる。	・「話す・聞く」は国語に限らず、日常的に「相手意識をもって話す」「最後まで聞く」ことが課題である。 ・「書くこと」に関しては、読む人のことを考えて、自分の意見を丁寧に書くこと、また、正しい言葉を用いて書くことが課題である。 ・語彙を増やすために、日常的に読書に取り組ませ、漢字の読みや慣用句、熟語などの語彙を増やす必要がある。	・「話す・聞く」は国語に限らず、声の大きさを意識させたり、聞くより聴くことを意識させたりして、日常的に指導を行う。 ・「書くこと」「言語」の力を高めるために週末に「日記」の課題を出し、読み手を意識した文章を書くことを重点的に指導し、定着を図る。分からない語句等は辞書を用いて、意味調べを通して自分で学習する力も身に付けさせていく。	・「話す・聞く」は、教科を問わず、相手を意識しやすい小集団での活動を多く取り入れ、他者に配慮しながら、話し、聞けるように日常的に指導を行う。 ・「書くこと」は、読み手を意識した文章を書くのに個人差がある。日常的に書く習慣付けるために、日記や授業のまとめ、自分の考えを文章で書くことを意識的に取り入れていく。	

		調領域「数と計算」では全国を大きく上回り定着していることが分かる。 調「領と測定」「図形」「が全国平均に近く、経年変化でスコアを大きく下げた原因と思われる。全体的な底上げが必要である。特に「面積」「折れ線グラフ」について理解を深める必要がある。 学提出される課題等を見ると、基本的な計算ができていない児童が見られる。	・面積や折れ線グラフなど、視覚効果の高い領域に課題がある。 ・大きな数の計算や、わり算など、基本的な計算ができていない児童が見られるため、全体的な定着が課題である。 ・単元終了後のワークテストは 9 割程度正答率があるが学期末のテストになると定着率が下がることが課題である。	・ICT 教材を活用して、全員が目で見えて理解しやすいように授業を展開する。 ・学力を定着させるためにも、計算ドリル等を活用し、単元が終わっても学習する習慣を付ける。 ・問題解決型学習を授業内に取り入れ、答えを求めるだけでなく考える力を育てる。公式等も暗記ではなく、そこに至るまでの過程を重点的に指導する。	・学習をより定着させるために、少人数担当の教諭と連携して補充問題も行う。 ・解決した問題について、図や式から考えを読み取る活動を取り入れ、考える力を育てる。	
6	国語	調領域「読むこと」の正答率は、全国平均を大きく上回った。特に「物語の内容を読み取る」や「説明文の内容を読み取る」は正答率が高い。 調「話す・聞く」が他の領域と比較すると標準スコアに近い。「言葉」の領域も標準スコアに近い。 学文字を書くのに時間がかかり、バランスのよい字を書くことに課題のある児童が多い。漢字の読み書きや慣用句、熟語の意味などが十分に定着していない状況が見られる。	・読書を好んでおり、その成果として読解力が身に付いている。今後は、好きな分野でなく多くのジャンルの本を読んで知識、語彙力に続けたい。 ・「話す・聞く」は国語に限らず、日常的に「相手意識をもって話す」「最後まで黙って聞く」ことが課題である。 ・「書くこと」に関しては、自分の意見を丁寧に書くこと、また、正しい言葉を用いて書くことが課題である。	・朝読書を活用して読書をする習慣を身に付けさせる。読書月間等を利用して多くの分野の本を読むよう声掛けをしていく。また、図書支援員による学級図書を利用して様々な分野の本を手軽に手にとれるような環境づくりを行う。 ・「話す・聞く」は国語に限らず日常的に指導を行う。 ・「書くこと」「言語」の力を高めるために週末に「新聞を読もう」の課題を出し、新聞の記事を読み、そこから自分の考えをまとめることを習慣化していく。分からない語句等は意味調べを通して自分で学習する力も身に付けさせていく。	・朝読書の習慣化だけでなく、読書月間の学級図書を全員読むことを目標に、表を作って視覚的に工夫をしてより多くの分野の読書ができるようにした。 ・「話す・聞く」は相手意識をして「話す」こと、最後まで「聞く」ことを繰り返し指導していく。 ・「書くこと」は、自分の考えをまとめる習慣を通してより明確に記述ができるようになってきた。今後は、友達の意見を読んでそこからさらに自分の考えを「書くこと」をしていく。また、「言語」は小テストを計画的に行い、確実に力を付けられるようにする。	
	算数	調領域「量と測定」では全国を大きく上回り定着していることが分かる。 調「数量や図形の技能」が全国平均に近く、経年変化でスコアを大きく下げた原因と思われる。全体的な底上げが必要である。 学提出される課題等を見ると、練習問題ができていない児童が見られる。特に細かい作図ができていない状況が見られる。	・「作図」の領域において、道具（分度器・コンパス）を巧みに使い、正確に作図することが課題である。また、間違い直しを避ける傾向にあるので、最後までじっくり取り組む必要がある。 ・単元終了後のワークテストは 9 割程度正答率であるが学期末のテストになると定着率が下がることが課題である。	・透明シートを活用して、作図のどの部分が違うのか自分の目でも見て修正ができるようにする。 ・学力を定着させるためにも、計算ドリル等を活用し、単元が終わっても学習する習慣を付ける。 ・問題解決型学習を授業内に取り入れ、答えを求めるだけでなく考える力を育てる。公式等も暗記ではなく、そこに至るまでの過程を重点的に指導する。	・「拡大図・縮図」では、細かな間違いが多かったので、繰り返し復習を行っていく必要がある。 ・習熟度別学習を生かし、問題解決型学習を計画的に授業内に取り入れることで、より考えることができた。学習をより定着させるために少人数担当の教諭と連携して補充問題も行う。	
音楽	学音楽における歌唱・器楽の基礎的な技能は概ね身に付けているが、よりよい表現を目指そうとする力をさらに高めていく必要がある。	・楽譜通りに演奏できた時点で満足してしまう意識がある。	・音色や曲想の変化に気を付けてよりよい表現ができた時とそれまでの演奏内容の違いを実感できるような場面をつくっていく。	・楽譜通りに演奏することで難しい児童もいるので、まずは演奏できることへの段階的な指導を充実し、達成感をもたせる。その上でよりよい演奏への声掛けを引き続き行っていく。		
図工	学多様な材料に触れる機会を増やし、造形的な考えや思いを広げ、豊かに表現する力を付けていく必要がある。	・表面的な表現にとどまってしまうことが課題である。	・多様な表現方法、材料体験の機会をつくり、自己の思いを色や形で表現できるようにしていく。	・様々な材料に触れる機会を設定し、発想や構想を広げられるようにしている。道具の使い方など、技能的な力も付けられるように指導を続けていく。		
特支	・まなびの教室利用児童の実態を的確に把握し、低学年は特性に応じたベースアップを中心に、中学年、高学年は学年の学習や生活に適応しやすい指導を行う。また在籍学級での個別的な配慮、ユニバーサルデザインの視点を各学級担任とともに考える	・低学年は課題の把握に努める。今年度はコミュニケーションや書字、学習体制の基本に課題のある児童が多い	・学習や人間関係づくりの基礎となる言語理解力を伸ばし、相手を意識した関わりを育てる。絵カードや表情カード、気持ちよくなる言葉掛けなどを視覚的に理解しやすいよう工夫する。	・児童の言語理解力が向上してきたが、まだ自分の気持ちをうまく言葉にできなかったり、相手を意識した行動に結び付かなかったりする児童が多いため、引き続き指導を行っている。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。